



福島県立梁川高等学校
令和元年7月5日
校長だより
知性 誠実 責任
第 30 号

■ ハッピー・ノート

現2年生が1年生だった3月に、「基礎力診断テスト」を実施しました。その結果は、

「希望する進路につけない可能性がある」レベルの人が62%でした。

また、

家庭学習時間0分の人が40%でした。

この状況を打開するために始めたのが、家庭学習で取り組む自主学習ノート「ハッピー・ノート」です。

毎週月曜日に提出するようになっていますが、その提出率を見ると、以下のようになっています。

6月3日	61.5%
6月10日	30.8%
6月17日	25.6%
6月24日	23.1%



アンケート結果から「ハッピー・ノート」の効果等を見てみると、次のようになります。

- ◆ 「ハッピー・ノート」を5月29日に開始してからこれまでの家庭学習時間に変化はありましたか。

家庭学習時間が増えている 76.9%

- ◆ あなたは「将来自分が希望する進路につくために、家庭学習の習慣をつけることは大切だ」と思っていますか。

大切だと思っている 88.5%

- ◆ あなたは、家庭学習には意欲的に取り組んでいますか。

意欲的に取り組んでいる 50.0%

意欲的ではない 50.0%

- ◆ あなたは、家庭学習に楽しく取り組める学習方法を持っていますか。

持っている 34.6%

持っていない 65.4%

- ◆ あなたは、「ハッピー・ノート」の分量（ノート見開き1ページ）は自分には適切だと思っていますか。

適切である 61.6%

- ◆ あなたは、「アップデート・メニュー」（左側の授業に直結した内容）は家庭学習を習慣にするうえで適切だと思いますか。

適切である 53.9%

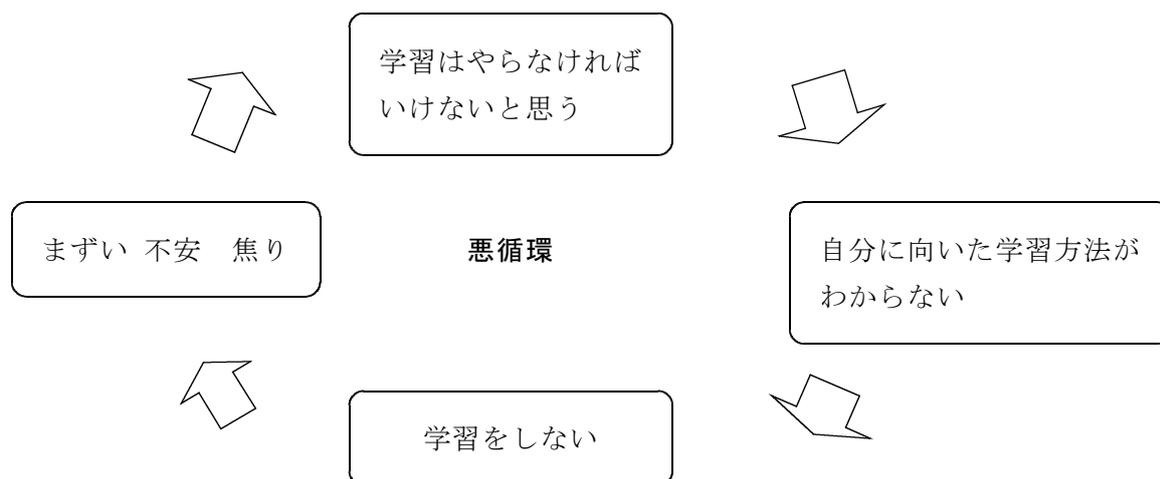
- ◆ あなたは、「ハッピー・メニュー」（右側の自分の好きな学習をする内容）は家庭学習を習慣にするうえで適切だと思いますか。

適切である 50.0%

適切ではない 50.0%

これらの結果から見えてくる2年生の姿は

- 将来のために家庭学習は必要だと強く感じている。
- 必要性はわかっているが、約半数の人はなかなか意欲的には取り組めない。
- 楽しく学習に取り組む方法がわからない。
- ノート見開き1ページくらいならば、できるかできないかぎりぎりくらい。
- メニューを決められたほうが良い人とそうでない人が半々くらい。



現在のハッピー・ノートのやり方だと取り組みづらいという人もいますので、これからは、フリースタイルを選択することも可能にします。週にどのくらいやるのかなど、自分で決めて進めるようになります。月曜日に提出するのは今までと同じです。

毎日、家庭学習をするのは当たり前のことですが、当たり前のことを当たり前に続けることがむずかしいのです。小学校、中学校のときに机に向かう習慣がなかった人が、急に家で学習するのは、なかなか容易なことではありません。しかし、目の前に希望進路の達成という大きな目標があります。この目標を達成するには、一夜漬け的な対策ではどうにもなりません。コツコツと地道な毎日の努力の積み重ねが必要です。ハッピー・ノートでも何でも、やっているうちに改善点が見つかり、よりよいやり方を考えるようになります。それを工夫といっています。世の中に出ても、工夫できる人は、それだけで強みです。